走れメロス(7)

太宰 治

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

冒頭の場面の日		一日目	二日目	三日目
シラクスの町	王城	故郷の村		刑場に向かう途中
メロスは妹の結婚式の品を買いに村からやって来たが、町全体がやけに寂しいことに気づく。老爺から話を聞いたメロスは激怒する。	**メロスと王の対話** メロス…人の心を疑うのは、最も恥ずべき悪徳。 王………人の心は、あてにならない。 **メロスと王の約束** メロスは妹に結婚式を挙げさせて三日目の日暮れまでに帰ってくると約束し、セリヌンティウスを人質にする。	メロスは一睡もせず村に戻り、式の準備をする。花婿に式を明日にするよう頼む。 二日目の真昼に結婚式が行われる。外は豪雨になる。妹と花婿に言葉を残し、メロスは眠る。		三日目の薄明の頃、メロスは出発する。故郷への未練で立ち止まりそうになる。川の氾濫や山賊に出くわし、疲れ切って動けなくなる。ふてくされた根性が心の隅に巣くう。 (悪い夢)ああ、もう、どうでもいい。正義だの、信実だの、愛だの、考えてみればくだらない。

三日目	
刑場に向かう途中	刑場
水を一口飲んだメロスは、再び走り出す。 **フィロストラトスとの会話** 信じられているから走る。間に合う、間に合わぬは問題ではない。なんだか、もっと恐ろしく大きいもののために走る。 **セリヌンティウスとの再会** 夕日の残光が消える直前、メロスは刑場に突入する。メロスとセリヌンティウスは互いの頬を殴り、抱擁し合う。	**王の改心** 王は顔を赤らめて、信実とは、決して空虚な妄想ではなかったと改心する。

人物像と場面ごとの変化

物語や小説を読むときは、登場人物の行動や会話に注目して人物像を捉える。登場人物の心情や考え方は何かのきっかけで変化することがある。時や場所に着目して場面を分け、場面ごとの人物の変化を整理しながら読み進めるとよい。

確認テスト

教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の各文を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア フィロストラトスからもう走るのはやめるよう言われたメロスは、自分は信じられているから走るのだと答えた。

イ 水を一口飲んで疲労回復したメロスは、義務を遂行し名誉を守るため、そして信頼に報いるために再び走り出した。

ウ 訳のわからぬ大きな力に引きずられて走ったメロスは、夕日がまさに沈もうとするとき、刑場に突入した。

エ 濁流を泳ぎ切り、山賊を打ち倒したメロスは、疲れ切って動けなくなり、正義や信実、愛をくだらないものと考えた。

[　　→　　→　　→　　]

(2) 次の各文を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア メロスの願いを聞き入れた王は、メロスにちょっと遅れて来いと耳打ちし、遅れたら罪を許してやろうと言った。

イ メロスから人の心を疑うことは最も恥ずべき悪徳だと非難された王は、人の心はあてにならないと答えた。

ウ メロスとセリヌンティウスの様子を見つめていた王は、顔を赤らめ、二人が自分の心に勝ったのだと告げた。

[　　→　　→　　]

(3) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア メロスは王の話を聞いて激怒し、シラクスの町にやって来た。

イ メロスは王城で、王に三日間の日限を与えてほしいと頼んだ。

ウ メロスは故郷の村で、川の氾濫や山賊に出くわした。

エ メロスは刑場で、フィロストラトスに話しかけられた。

[　　]